

復興道遠く、まだ風化させないで!

「まもなく5年を迎える被災地では…」3月に入り、めっきり被災地報道が減っていた報道各社が被災地の現状を伝えだした。そして、国民の多くが、「遠のいていたあの日の記憶」を手繰り寄せる。

私たち実行委員会は、発足当初から被災地のみなさんが一番恐れている「風化」を、防ぐことに心を砕いてきた。轍読者の皆さんの力を拠りどころにして被災地に応援の心を届け続けてきた。その活動は来月の11日で5年を迎える。応援の難しさを、時の経過と共に感じながらも、繋がる喜びを支えに歩み続けた。私たち実行委員会は「息の長い活動」を信条に、復興未だ遠い被災地に思いをはせながら、私たちにできることを探し求めてこれからも被災地応援活動を続けたい。

第6代目実行委員長挨拶

頼りになる3年生12名が卒業して、バトンが私たちに渡されました。その日から2年生の私たちの中で委員長を誰がやればいいか考え話し合いました。その結果、異例ですが4人で委員長を努めることにしました。その理由は…

1. 応援のためのさまざまな企画は、みんなで考えてきました。みんなで考え、行動するためには責任を分け合いながら進めたほうがより自覚が高まる。
2. 先生の力に頼り過ぎない活動を進めるためには、委員長の力を人数でカバーさせてアップさせたい。ということで…

私たち4人が大切にしたい活動への思いは

- ① ボランティア活動である自覚をし、「応援したい」気持ちを大切にしたい。
- ② 応援を通じて、人の関わりを大切にしたい。
- ③ 愛を大切にしたい活動をした。
- ④ 活動の中で、人の温かさを実感したい。
- ⑤ 被災された方々の心に寄り添いたい。岩本 真奈・三益 巴葉・森脇 侑・矢田 まりあ
- ⑥

5年目を迎えた被災地

死者は1万8千500人を超え、仮設住宅内での孤独死や、自殺者など震災関連死を含めれば死者は2万1千人を超えている。未だ行方が分からない人は2,562人。

5年を迎えても7/8仮設住宅で暮らす人々は約6万人。避難生活を送っている人は17万4,471人。福島原発事故で、県外での生活を送っている人は4万3,000人。

思いを繋いで5年

今日で、震災から5年が経ちます。皆さんはあの時の光景を覚えていますか？

テレビの端に表示された増加が止まらない死者の数、波に飲み込まれていったたくさんの車。私は今でも忘れることができません。もうあれから5年も経つのかと思うと、時の流れの早さを感じます。

震災が起きて直ぐ、この委員会を含めさまざまな団体が被災地の支援に名乗りを上げました。支援物資を送ったり、募金活動をしたり、みんなが被災地の状況に胸を痛み、思いを行動に移して被災地に手を差し伸べていました。今もその手を離さず握りしめ、支え続けている人たちがいます。この「轍」もその一部です。

私たちのような学生という立場でしかできない支援があります。どうか「5年も前のこと」と言わず、被災地の状況に今一度目を向け、思いを巡らせてみてください。まずは、「忘れない」ことが今も私たちにできる支援の大切な第一歩です。

今年、スキー競技の国体が岩手県の八幡平で行われました。この国体には「東日本大震災復興の架け橋」という副題？がつけられていて、開会式では被災地についての話がほとんどで、スキー連盟の岩手県に対する代表挨拶の際も「選手たちの勇敢な滑りを見せることで、少しでも被災地を元気付けることができれば」というお話がありました！久しぶりに被災地関連の話聞いた気がして、自分があの日抱いた気持ちを忘れかけていたことに気づかされました。忘れないって難しいですね。しかし、あの日の思いを繋いで被災地応援活動を継続してくれている後輩達がいることは心強く感じています。有難う！

初代実行委員長 関西学院大学
西紋 あかり

「なにかしたい、でも何をすればいいかわからない。」そう思っている時に誘われたのが、東日本大震災被災地応援実行委員会でした。委員会での活動は思ったとおりに進まないこともあり何度か諦めそうにもなりましたが、被災地の方々に元気になってほしいという一心で活動をしているといつの間にか自分が沢山の元気頂いていました。震災から5年、元気な社会を作る人になりたいと思い、立命館大学産業社会学部で文化・社会におけるコミュニティーについて勉強をしています。今の自分にできることは僅かかもしれませんが、少しでも被災地を始め周りに幸せの花を咲かすお手伝いをしていきたいと思います。共にがんばりましょう。

第2代目実行委員長 立命館大学
佐藤 千亜紀

東日本大震災が起きた当時、私は中学3年生でした。テレビに映し出される被災地の様子は、生まれて初めて見る衝撃的なもので、映像を見るたびに胸が痛んだことを今でも覚えています。

震災から5年がたち、メディアなどで被災地の様子が伝えられる機会は減ってきています。しかし、被災地が完全に復興したという状態でないことは今も変わりません。

5年たった今、私たちにできることは震災を風化させないことだと思います。「被災地を忘れない」と言うことを心に刻んで、「あの日」に向き合い続けたいと思います。

第3代目 実行委員長 立命館大学
上原 実果

4代目実行委員長 清家 未来さんは、現在アメリカの大学にいます。
メッセージはまたの機会となります。